

もっとお口のことを知りたい お母さんたちのために……

埼玉県北部で活動するママサークル『sun-sun-sun』。
0～3歳のダウン症のお子さんを持つお母さんたちが集まり、
月に1回“おしゃべり会”をしています。

基本的には子どもたちが遊んだり親同士でおしゃべりをする場ですが、
外部の方を呼んでときどき講習会をすることも。
サークルの起ち上げメンバーでもある綿貫那月さんの知り合いに
Goodbye Perioプロジェクトのメンバーがいたことで、
5月の会はオーラルケアがテーマになりました！

今回講演を行なったグッペリメンバーの高橋絢子さんは、
ダウン症の子どもも通う埼玉県総合リハビリテーションセンターで働く歯科衛生士です。
ダウン症児の歯の特徴や、ケアをするうえで気をつけたいこと、
埼玉県北部で障がい者を診てくれる医院のリストなど……。
サークルのお母さんたちのリクエストにお応えする形で会は進んでいきました。

次女みおの美桜ちゃんと一緒に参加した綿貫さんに、
講習会の感想をうかがいます！



フロスの使い方指導には赤い毛糸を使用。「子どもたちが細いフロスを誤って飲み込まないように」という配慮と、お母さんたちに正しい持ち方を見やすくするための工夫なのだから。



フロスの使い方が、ようやくわかった！
講演の内容は、すごい良かったです！ ダウン症の子の特徴的な歯の生え方とか、お口の細菌が心疾患に大きな影響を与える話とか。歯と歯の間のプラークに住む細菌が歯周病の原因になるっていうこともみんな知らなかったんで、将来的に大事なことも含めて教えてもらえたなって感じでした。
私は個人的に、フロスの使い方を知れたのがうれしかったですね。5歳の長女を歯医者さんに連れていくと「お家でもやってくださいね」と言われるんですが、いつも時間がないみたいであんまりじっくり教えてもらえないんですよ。一応挑戦してみるけどどううまくできないから、下の子にやるわけにもいなくて。「こうやってやるんだ〜」って、勉強になりましたね。

この子たちのために 必要な情報は、 どんどん 仕入れたいんです



綿貫 那月さん/主婦(埼玉県)



今回の主催者は、グッペリメンバーの高橋絢子さん(中)。大野淳子さん(左)の協力も得ながら、お母さんたちに口腔ケアの大切さを伝えました。

歯のことに限らず、この子たちのために必要な情報を自分で取りにいくってけっこう大変です。でもこうしてグループで集まっていると何かしら仕入れてくる人が必ずいるし、話題に出れば他のお母さんも「なにに？」って聞いてくれます。そういうコミュニケーションがあとあと役に立つから、子育てをするうえでかなり安心感になるんです。
私も娘に必要なリハビリのこととか全然知らなかったたので、ここで情報交換するようになって助けられたことが何度もありました。だから今回みんなにも、「有意義な時間だった」って思ってもらえたらうれしいな。口腔ケアの大切さは、親として必ず知っておかなきゃいけないことですから。いろいろ工夫しながら教えてくださった高橋さんや Goodbye Perio プロジェクトのメンバーの方に、感謝です！

「むし歯や歯周病は怖い」ってことを、みんなに知ってほしかった

サークルができて、まだ1年経っていないですね。最初は「同じ境遇にいるママ同士友達になりたい」ってことで10人くらいから始まったんですけど、今は35人に。小児医療センターの外来で知り合った方やサークルのブログを読んでもくれた方など、少しずつ仲間が増えてきました。基本的には月1回、ただ会っておしゃべりするだけなんです(笑)。だけどやっぱり元なすこい楽しみにしている。こういう場所をつくってよかったなって、集まるたびに実感しています。

誰かを呼んで講習をしていただくのは、本当にたまたまです。今までにやったのは、ベビーマッサージとか体操教室とか。知り合いを通じてお願いすることが多いですね。今回 Goodbye Perio プロジェクトさんをお招きしたのは、お話ししてくれた高橋さんが私の高校のときの先輩と同じ職場だったから。「お口の健康について話してくれるみたいなんだけど、サークル活動にどう？」って先輩が提案してくれたので、頼んでみることにしました。

Next

今回は、主催者の高橋絢子さんにインタビュー！
グッペリ活動をするにあたり、ご自身で目標を決めてから実行するまでのプロセスをうかがいます。

お詫びと訂正

134号『Goodbye Perio プロジェクト』のコーナーで、「子どもでも歯周病になる」「赤ちゃんにもフロスが必須アイテム」という表現がありました。ここでいう子どもの歯周病とは歯科疾患実態調査で明らかになっている5〜9歳の歯肉炎を指しており、そういった将来を招かないために「赤ちゃんのうちからフロスに慣れさせる」大切さを伝える意図がありました。一部誤解を招くような表現になってしまったことを、心よりお詫び申し上げます。